

## 二次災害による犠牲

土砂災害が起こった後、どう対応するか難しい判断が求められることがあります。安全を確保することが最優先だというのは分かっていますが、目の前にいる生き埋めの人などを見過ごすわけにはいかず、消防署員や消防団員などが必死になって救出・救援活動を行い、その時に二次災害が発生することもあります。徳島県美馬市木屋平と高知県香美市土佐山田の例をご紹介します。

### ■川井の殉職の碑（徳島県美馬市木屋平）

昭和50年（1975）8月22日から23日未明に襲来した台風6号により、剣山周辺では異常な集中豪雨に見舞われました。木屋平村（現美馬市）の川井地域、三ツ木地域では山腹崩壊が起こり、民家や道路が流失しました。川井地域では、生き埋めとなった少年を救出作業中に二度目の崩壊が起こり、消防職員3人と消防団員1人が犠牲になりました。殉職者の一周忌にあたり、その霊を慰めるとともに、災害の発生を後世に伝えるため、美馬東部消防組合と木屋平村によって殉職の碑が建立されました。＜参考資料：木屋平村史編集委員会編「改訂 木屋平村史」1996年など＞



殉職の碑



(地理院地図に加筆)

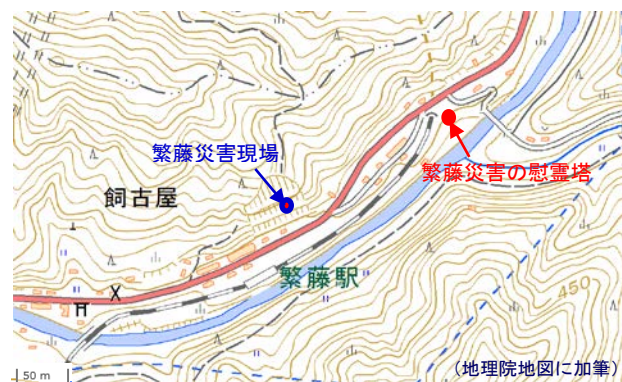
### ■繁藤災害の慰霊塔（高知県香美市土佐山田）

昭和47年（1972）7月5日早朝、集中豪雨により、土佐山田町（現香美市）繁藤（しげとう）の通称追廻山（おいまわしやま）で山崩れが発生しました。6時45分に第2回目の山崩れが発生し、避難作業を手伝っていた一人の消防団員が生き埋めになりました。消防団員の救出作業が行われる中、6時48分に第3回目の山崩れ、10時54分に第4回目の山崩れ、そして10時55分頃に第5回目の山崩れが発生し、10万立方メートルの土砂が一瞬のうちに駅前付近の集落や停車中の列車を押し流し、消防団員ら60人が行方不明となりました。災害現場近くに繁藤災害の慰霊塔が建立されています。＜参考資料：土佐山田町報道委員会編「昭和47年7月豪雨・繁藤 山くずれ災害記録」1973年など＞



繁藤災害の慰霊塔

copyrights 2013 徳島県アーカイブス



(地理院地図に加筆)